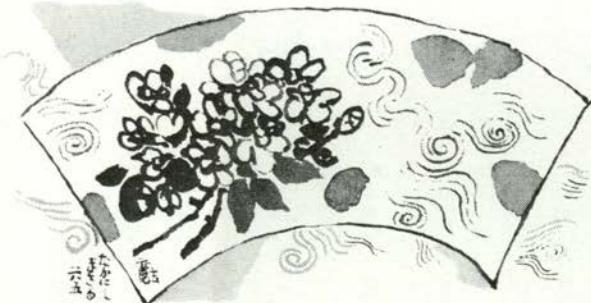


□隨想□

季節と日本人

小原 豊雲
え・中西 勝



日本人ほど季節感に敏感な国民はないよう思える。その生活態度、生活環境を、春夏秋冬の移り変わりに合わせて楽しむという才能は、他の国々の人々にくらべて、大へんすぐれているのではないか。

しかし、一方、最近日本人の生活様式が、ヨーロッパやアメリカ並みになってしまい、今日の若い人たちには日本人特有の季感がかなり稀薄になつていることもまた事実である。これは、現代の日常生活が、あまりにも便利になりすぎたことにもよつている。オフィスや室内の冷暖房の完備は最も特徴的なその例の一つであるが、食物にして季節のものが一年中缶詰や加工品にしてあって、季節季節の移り変わりをしみじみ思うという気持にさせることをばんんでいる。生活が便利になることで日本人のよさがうすれて行くのはさびしいことである。

私などは、もう老人組みに入っているわけだが昔だったら着物も冬は綿入れを重ね、春秋は袷、夏は涼しげな紹とか帷子などというぐれい季節らしいのあるものを着せられたものだ。男性でさえ、それぞれのシーズンに合ったものを着ていたのである。

もちろん、文明が進んで高度な文化生活を楽しめるようになってきたのは結構なことであるけれど、人間生活の日々の中に四季の移り変わりにしみじみ思う、というようなゆかしさや感情の優雅さがないのは、どうも味気ない、考えるのは私たち老人組みばかりだろうか。近頃の粗暴なカミナリ族や居眠りダンプカーなどの非行は、そうした日常の味気なさにもつながりそうに思つたりするのは、私だけだろうか。ともかく、近頃、無性に日本の古いよい風習、といったものが恋しくてならない。

時代が進むにつれて、生活環境がかわるのは仕方がないとしても、そうしたよい感情、よい風習は大切にしていくこうとする精神を、もっとみんなが強くもつてもいいと思う。

アメリカやヨーロッパでも、季節という問題とはかけ離れているけれど、その国に古くから伝承されているものは、思いのほか大切にしている。ブームに乗った古寺名刹が観光化している日本とはちがって、古いものを大切にすることが、国民的な誇りとなっている。こうした事柄は、積極的に見習うべきだと思う。このようなことは、日本人の欠点というよりも、もつときびしいれば、自國の伝統というか、自らの国が持つている古いものによさに対する本当の理解や教養というもの

が不足しているからではなかろうか。文化面にたずさわっている政治家の中にも、一般には、その意味をよく知つてくれない人が多いのは非常にさびしいものを感ずる。

いさか我田引水になるけれども、そういうものをいちばん身近に、敏感に語ってくれるのは、私たちがいけばなをする四季とりどりの植物ではなかろうか。花展などでは、われわれも、従来の自然主義的ないけばなとは別個に、非自然的な新傾向のものを創造することを盛んにやつてもいるが、そればかりを今日的ないけばなとして進めているわけではない。季節感を主とした伝統的ないけばなも大いにつくっているのである。

昔から茶花では、寒い季節には椿を、暑い季節には木槿の花を賞美する。それは、花の美を楽しむこともさらることながら、静寂な茶室の環境において、床の間に挿された一花一葉のたたずまいにそうした季節感のあふれた自然を室内に導き入れて人の心を楽しませることに、花をいける本意があるのである。

初夏の六甲山を彩る山つつじの色は、この季節をおいては自然の環境とはマッチしない。同様にざくろの花の赤い色、あじさいの紫、かんぞうの黄色は、梅雨時の陰うつな、雨がそぼ降る時にはじめてその美しさを發揮するのである。

神戸の山々は、最近宅地で荒されているとはいえる。日本人の、かつてのよき情操をとり戻すことがある。日本人の、かつてのよき情操をとり戻すということについても、大いに目を開きたいものだ。

一一つの顔

黒部
え・中西
勝亨



ぼくの知り合いにNという占い師がいる。子供が産まれる前に彼に占つてもらつたところ、二回とも女ができると予言して見事的中したので、以来彼を最重にしてゐる。その彼がある時こんなことを言つた。

当節の若い者の顔は、どれもこれもインスタン

トランメンと週刊誌とでこねあげたような浮薄なものばかりである。ムカシの人間には若いながらも陰徳の相を備えた者や精神の刻印とでもいつたものを刻みつけた者がいて、こちらが思わずウー

ンと見惚れるようなのが十人に一人ぐらいはいたものだ——というのである。

当節の若い者というのが何歳ぐらいを指し、ムカシというのがいつ頃を指すのか詳しく聞かなかたが、老占い師の述懐としてぼくは面白く聞いた。

たまたま先日アルバムの整理をしていてこのことを思い出し、試みに二十年前のぼくたちの写真と、この前撮つた中学三年生の写真と比べてみて、ぼくは占い師とは別の意味でなるほどと思つ

た。同じ年輩の少年でありながら、たしかにここには明瞭な違いが一つある。ほくたちの写真といふのは戦争まつ最中の学徒動員時代のもので、どの顔も恐ろしく陰うつなのである。たしか、笑つてうつしたはずなのに、笑顔が笑顔になつていなければかりか、かなり老けてみえる。現在の少年のそれに比べてその相違がはつきりわかる。

極言すると、この違いの根底には、切迫した生死という問題を一方においてものを考えたかどうか、ということがあるのでないかと思う。

あの当時のほくたちは、遺書と頭髪を封筒に入れて実家においていた。毎日、一時間後の生死が予測できない恐怖。故郷を遠く離れた郷愁。夜も眠れない空腹。歪曲された性への関心。敗戦間近かなあの時代がほくたちに要求した顔がどんなものであつたかは、現代の少年に比べてみて実にはつきり読み取れるのである。恐怖からのがれためになるべくものを考えないでいようとして結局考えたのがほくたちの時代であつたのに反し、ものを考えようとして考えられないというのが現代の子ではなかろうか、とぼくは思う。

問題は、彼らにものを考える場所と時間を与えないという現実である。

朝八時から午後四時まで学校での授業。それから補習。大急ぎで帰宅してすぐ塾へ飛ぶ。九時近くヘトヘトになって帰宅。夕食と入浴。それから膨大な宿題——まずこれが普通の高校をねらう中学生の生活で、高校生となるとこの状況はもつと苛酷になる。ものをじっくり考える時間はどこにも与えられない仕組になつていて。

場所にしてもそうである。昔の人はものを考える場所を、『馬上』、『枕上』、『廁上』の三カ所

とした。『馬上』はさしつめ現代では乗り物の中、乃至は道を歩きながらということになるが、交通地獄の現在、それを要求することは少くとも都会の学生にたいしては間接的殺人である。仄聞するところによると、ある小学校では交通事故から身を護るために、忍者まがいの器械体操によって反射神経の練磨をしているそうである。ものを考えるどころではない。

『枕上』——これは夜が静寂なものであつた古き懐しき時代においてのみ可能であった。そしてまた、テレビの誘惑と、昼間の詰め込み教育の疲労を克服できる心身強健な子に限つてのみ可能である。

残るは『廁上』であるが、少年少女の中には痔疾患者は少ないはずだから、気のせく朝の五・六分で、そうまとまつた思索ができようとは思われぬ。

そう考えてみると、現代っ子たちも不幸な時代にめぐりあわせた子供たちということができる。二十年前の少年少女たちが、ただ動物的な恐怖と苦悶を浮べていたのにたいして、現代の少年少女たちはたしかに一見、明るい表情をしている。しかしよくみると、そこには思索の定着性のない、ただベルトの上に載つて流されている者の痴呆的な明るさだけしかなく、その笑いの一枚下には、油のきれた機械のきしんでいるような虚しさがぼくには見えるのである。

青春前期の少年少女たちが、本当に生き生きとした明るい表情をしているときがその国の文化の健全なときであり、将来の発展が約束されているときだ、というのがほくの持論である。

(作家・第八回「群像」新人賞受賞)

□隨想□

入学試験

田島 博

今年は、春が、だいぶ遅いようだつた。いつも
の年だと、われわれの大学の入学式は、満開の桜
が入学生をむかえ、新しいなどでふさわしいは
なやいだ行事になる。だのに、先日の入学式では
つぼみがわずかにふくらんだだけで、桜の枝は、
はだかのままゆれていた。花のない入学式は、な
んとなく季節はずれの感じであつた。

なるべくなれば、入学式は、世の中がいきなり
目をさましたような満開の桜につつまれていてく
れるほうがありがたい。希望におもてをかがやか
せて大学にはいつてくる学生の前途を、この日ま
での苦しい記憶などはすっかり洗いながして、ひ
たすら祝う気分にひたるためにも、入試の頃のま
での窓外の風景は、目ざわりでいけない。

ここに集つてゐる学生たちも、数日前には、み
な、暗い、さむざむとした顔つきの受験生だつた
そのあと、昨日までの数日間、彼らは、われわれ
にとって、番号と点数であらわされたおよそ非人
格的な存在にすぎなかつたのである。いい点をか
せいで樂々と合格した番号、わずかな点数のちが
いで不合格にまわされた番号、あるいは、ぎりぎ
りのところでひろわれて合格になつた番号——ど
んないきさつがあつたにしろ、所詮、どの番号も
単なる数字の組みあわせにすぎず、合格不合格ど
ちらにまわつても、別段の感慨もなかつた。

この非人間的な作業のために、われわれは委員
会をつくり、まる一年間、細心の注意をはらつて
準備をととのえ、入試前後の数週間は、連日、夜

おそらくまで仕事をつづけた。いよいよ合否が決定し、委員会の任務を大過なくおえた瞬間、入試が強迫観念のようになつて頭上におおいかぶさつていた一年間をふりかえりほつとすると同時に、いよいのないむなしさをおぼえた。番号も、点数も、入試という制度そのものからして、空の空たるものにすぎず、人間が勝手につくつて勝手にくるしんでいるきちがいめいた絵そらごとにおどらされていたようにおもわれてしかたがない。

ところが、こうして入学してきた生氣にあふれる学生を目のまえにすると、われわれのやつた作業は、やはり、虚妄の世界でのきごとではなかつたのだと、夢からさめるおもいがする。数字の組みあわせが影のごとくむなしくみえたのは、その影のむこうがわに、このような実体がひかえていふることを、つい忘れていたためだろう。われわれがそれを忘れているあいだにも、われわれの作業は、着々と、うごかしようのない現実をつくりあげていたのである。それをおもい、われわれのえらんだ若者たちをながめていると、いまさらのように、自分たちのやつたことが、そらおそろしくなる。

点数というきわめて非人間的な尺度で、この若者たちの生涯の運命を裁断してしまうのは、いつたい、どういうことなのだろう。1点と2点とは数字であるかぎり、あきらかにちがう。だが、それを、この若者たちの生涯の運命にむすびつけると、それが、どんな意味になるのか、わたしによくわからない。わからないままに、それでもつて、彼らの運命を処理しなければならないのだが

ら、おそらく。

人間の世界に、偶然とか運不運は、つきもので入試だけにかぎつたわけではあるまい。あまりそれを気にやむのは、神経衰弱だと、わらわれるかも知れない。しかし、いずれ偶然と運不運はまぬがれないとしても、いまの入試より、もうすこし確信のもてる試験のやりかたが、ありそうにおもわれる。だいじ、現在では、点数のもととなる問題をつくるのは、われわれであつて、われわれは、本来、それぞれに専門をもち、その研究を生かして、学生に教えるのがつとめである。入試問題を専門に研究しているわけではない。いわば、入試問題について、素人なのだ。あらゆる分野にわたつて専門化のすんでいる今日、大勢の若人の運命を左右する入試問題が、素人同然のわれわれにゆだねられていて、専門家がいないというのは、どうにも、おかしい。

入試を全廃する見込みがたたない以上、入試をあらゆる角度から研究し、もつとも合理的で、信頼度のたかい問題をつくつてくれる専門家があつて当然ではないか。現にアメリカでは、さまざまに目的に応じて、試験の出題から採点まで一貫して引きうけてくれる専門の機関ができるといふ。そうなれば、われわれも、自分の専門の研究と教授に専念できるわけだ。入学式場の窓外に、試験の作業を悪夢のようにおもいだしたりはしないだろう。新入生の前途をすなおに祝い、彼らをむかえて心からよろこべるにちがいない。

DORMEUIL



Sportex

O-SHIBATA



柴田音吉洋服店

神戸・元町通4丁目 神戸 34-0693
大阪・高麗橋2丁目 大阪 231-2106

25



PELO TIES
WEST GERMANY

ネクタイの

元町バザー

神戸×元町 TEL 331-1401

あんざら庵



きものと細貨

東京 神戸

銀座店	新橋店	東	西
T	T	T	T
E	E	E	E
小	L.	L.	L.
松	(572)(571)	(3)	(3)
ス	5	0	8
ト	1	8	6
ア	5	0	3
地	1	2	6
階	7	9	(代)

緑の風と共に…

アントルメフロアー
(冷たいフランス菓子)
のシーズンがきました



ババロア大イチゴ ¥500
オレンヂ ¥400
小各 ¥60

あなたとパリを結ぶ..



フランス菓子
ドゥーフ

三宮センター街

TEL ⑨ 5481~3

□ 神戸つ子放談 □

神戸の新しい拠点に

森 本 穎 二

(森本倉庫KK取締役・三宮ビル管理KK取締役)

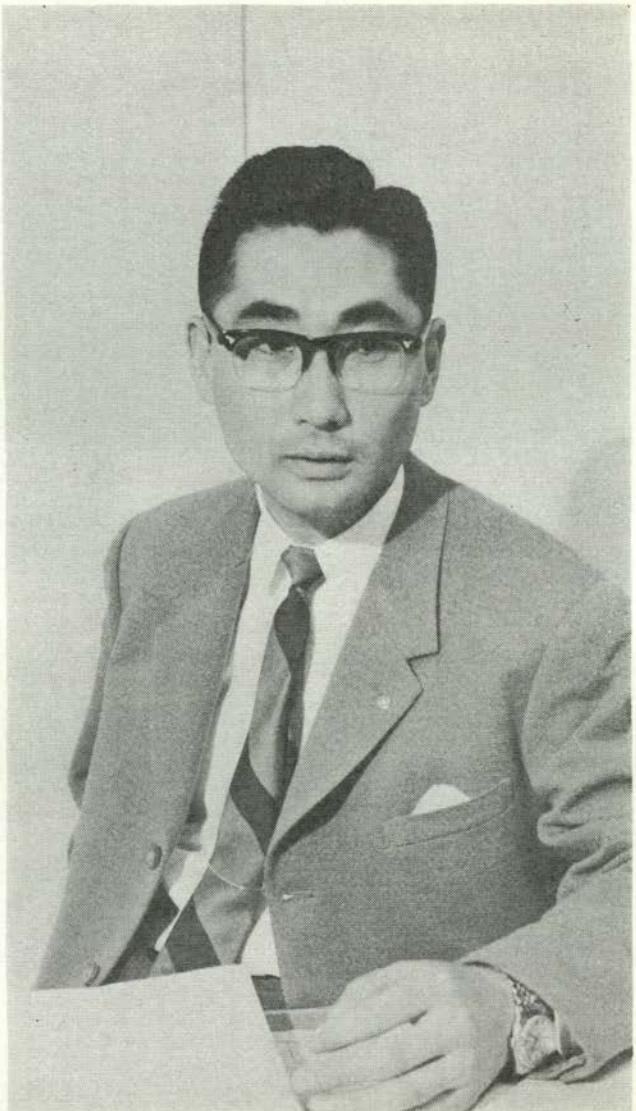
神戸三宮駅の南正面玄関口に、三宮ビルが建設されようとしている。地上10階、地下2階、延面積約6千坪という近代的なビルディングである。このビルが完成されれば、神戸の中心街が大きく変貌することは確実だ。そ

こで本誌編集部では、神戸市民の注目を集めている同ビルの推進者たる三宮ビル管理株式会社取締役の森本禎二

4代目神戸つ子

氏をお訪ねし、三宮ビル建設の動機、概要などの話頭を中心にして、今月の神戸つ子放談をお願いすることにした。

「私は、実をいうと4代目の神戸つ子なんです。もと



も私の家は元町1丁目の出で、代々倉庫業を営んでいたわけです。少くとも倉庫業としては、神戸で一番古いが創始者で、もともとは貸倉業として発足したわけです。森本六兵衛が、貸倉業から出発した倉庫業というものは、私のところだけでしょう。主に外国の商社などに貸していたんですね。例えば、シンガーミシンなどは私とこの倉庫を使っていたそうです。

外国人との接触も多かつたようですね。現在の森本倉庫の事務所にても、白系ロシア人の技術者が設計した建物で内部は北欧風の造りになっています。

私が生れたのは住吉です。学校ですか？中学校から大学までずっと関西学院ですよ。昭和28年に大学を出まして、住友倉庫にはいました。そこで現場や営業面の勉強をさせていただいたのですが、昭和34年に父が亡くなりましたね。それで、急きよ戻ってこいということになつたわけです。そして、そこは親戚同士の話し合いで、なんとかやっていこうじゃないかということになりましたね。もつとも、誰にしても社長になるには常に短し裡に長しという感じだったんですね。(笑)

三宮ビルの建設は長年の悲願

「はつきりいって、町の中心になる駅の前が今まで空地になつていていたというのは、たぶん神戸だけでしょう。しかも森本が旧イースト・キャンプ跡の土地をほつたらかしにしているから、三宮がよくならないんだというような非難を、あちこちで耳にしていましたよ。(笑)、まあ、ずいぶん悪名が高かつたわけです。(笑)それは、私自身よく承知していたつもりですが、今となれば、私が広い土地をコマ切れみたいに貸していたりしたら、妙なバラックみたいなものが、いっぱい建つてありますよ。かえってそれは神戸の美観の上からも、発展の上からも、よくないことですね。私の父にしても、土地は持つておい

ていすれ立派なビルディングをつくりたいということを、前々から言っていたんですよ。力がつくまで時機を待っていたということです。

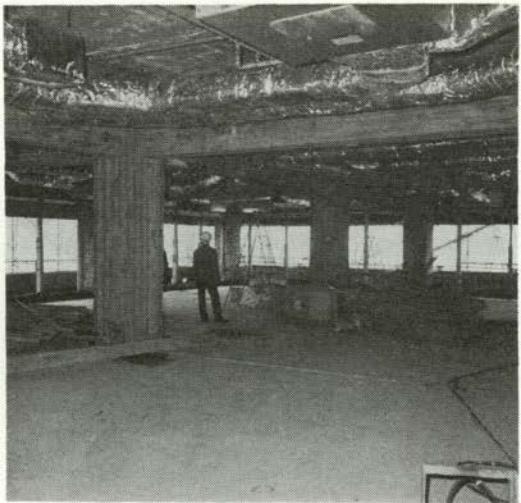
しかし、これまでの悪名をそぞろという意味からも、やる以上は最善を尽したい。他にはちょっとみられない新鮮なすぐれたビルディングを建設したい。そういう気持ちでしたね。百年近くも神戸にはお世話になつてゐるわけです。神戸の表玄関に変なものをこしらえるようでは、それこそ先祖が泣きますよ。

第一の特色は、ビルのスタイルです。敷地面積は全部で560坪あるのですが、敷地いっぱいにビルを建てるようなことはせず、充分に余裕をとつていて、他の多くのビルと比べてすっとスマートなスタイルになりますね。ビルをいびつな形にするのは、私は嫌いなんですね。

第二の特徴は、その設備ですね。私は、あちこちのビルを調べてみましたが、例えば1階の壁には大理石を使つて、2階から上は材質を落としてみたり、エレベーターのドアも1階だけ立派なものにする。そういう変な差別待遇をしているんですね。私は、そういうことをしたくない。壁はどの階も大理石を用いていますし、エレベーターのドアにしても、すべてステンレスを使つていています。1階だけみたら素晴らしいが、上にあがるとそのイメージがこわれるようでは困ると思うんですよ。また、冷暖房装置にしても、よく北側の部屋になると寒かつたり、南側だと暑くてかなわないというケースが出てくるんですが、今度のビルはそういうものではありません。つまり、暖かい空気と冷たい空気と、両方つくるんですよ。そして、地下からその両方を送るようにして、各階に、混合機を設置し、サーモスタットで適当な温度に自由に調節できるようにしてあります。そして、全館みがきガラスを使っていても誇りにしていいでしようね。だいたいビルディングというのは、一度建てたら、

応貸事務所、また10階には貸会議室を設けています。こ
こは、社員教育にも、セールスマンの秘密会議にも自由
に使っていただけだと思います。

完成予定ですか？ 昭和38年の12月に着工して、今年
の8月末には竣工の予定です。



建設中の三宮ビル内部

最近、神戸の経済界の地盤沈下ということが論じられ
ていますね。みんな大阪に吸収されていくと。それ
が現実としても、いつまでもそれを傍観していてもしか
たがないですね。やはり、有力な企業のオフィスとい
うものが少ないということでしょう。だから、この三宮ビ
ルが理想的なオフィスとして役立つならありがたいと思
いますね。今まで土地をほったらかしておいた借いをす
るに足るビルディングをつくらなくてはならぬ。それが
私の悲願なんですよ。」

そう簡単にしつぶせるものじゃないんです。まあ、50年か

60年はそれを生かしていかなくてはならない。一生の仕
事といつていいので、それだけにいいビルをつくりたい
と思ったですね。おそらく神戸一のビルが生れるんじや
ないかと確信しているんですよ。少くとも、どの階には
いった人も、いやな思いをせずにすむ、それだけの配慮
はしているつもりです。」

昭和40年8月末にビル完成

理想的なオフィスとして

「ご承知のように、三宮地下街が今年の10月には開店
されます。このビル建設に踏み切った時に、市当局と
も話し合って三宮地下街と結びつけるということになり
ましてね。だから、地下1階は、地下街の延長といふこ
とで、飲食店街になる予定です。また、地階通路によっ
て国鉄、阪急、阪神とも連絡できるようになりますか
ら、都心の交通事情はぐんとよくなるはずですね。1階
には今のところ銀行がはいる予定ですが、2階以上は一

趣味はヨットと植木

「今、私は神戸青年会議所のメンバーであり、また神
戸ロータリークラブにもはいっているのですが、これは
私には非常にありがたいんです。というのは、一方は若
手の集りだし、他方はどちらかといえば年輩の方が多い
わけですね。だから、その両方のメンバーになつている
ことによって、新旧両世代の意見にたえず触れることができ
て大へんありがたい。」

趣味ですか？ それはなんといつてもヨットと植木で
すね。ヨットは学生時代からずっとやっています。私が
関西学院でヨットをやっていた時代は、関学のヨット部
の黄金時代でしたね。私のヨットの名前はビーバー3世
というんで、友人がつけてくれました。眼下、修繕のた
めに小豆島へ出しています。もっと今は忙しくて、去
年の夏頃から全然乗っていませんけどね。」

植木が好きだというのは、ヨットと正反対の趣味です
が、これはまあ、家庭の遊びということですね。」

経済ポケット ジャーナル



プロモーター原口市長

船上会議でハッスル

神戸市の相楽園会館で四月十日、港湾都市協議会（会長原口・神戸市長）の総会が開かれ、全国から約九人の市長が参加した。同



松浦運輸相に説明する原口市長、右は中馬大阪市長（むらさき丸船上で）

シス템（押し船方式）を採用、内海輸送を近代化すること提案した。同会議では関税収入の一部を港湾施設整備に投入せよ、管理者制度を改善する。港湾都市財政を改善するなどを決議、運輸省へ善処するよう申し入れた。

翌十一日は神戸から別府に向かう関西汽船のむらさき丸船上で松浦運輸相を迎えた第二回船上会議が開かれたが、このプロモーターは原口・神戸市長。午前八時四十分、出港と同時に甲板に出でて松浦運輸相に神戸港の現況を説明、神戸にはポートアイランド（人工島）建設が必要だと強調すれば、昭和六十五年度を目標にし、①人工島（ポートアイランド）を建設して、神戸港の機能を拡充するとともに大阪、関門各港と有機的なつながりを持せる②本州一四国間に五本の橋をかけ、瀬戸内循環自動車道を整備する③バージライン・

船）を四隻づらねて、観船式としゃれこんだ。井上五管本部長も「なかなかいいきなことをやるね」と感心。昨年、実力大臣の河野都設相（当時）を迎えた原口さんだけにやることもなかなか手が込んでいる。会議で司会役だったが、港湾都市協議会会長だけに貢献はじゅうぶん。運輸相から「明石一鳴門にまず橋をかける」「押し船は瀬戸内海には最適だ」「関門を国際航路にする」「港湾への補助も道路などにする」「瀬戸内大運河構想には大賛成だ」など言質というか、みやげもガツチリ確保し、御満足の体だった。

万国博近畿一本で協力体制

万国博の会場は大阪・千里丘陵一本と正式に決まり、神戸会場案は流れだが、こんどは近畿一本で万国博の日本誘致に力を入れることになった。

日は原口市長が「瀬戸内海の交通体系」と題して講演し、①人工島（ポートアイランド）を建設して、神戸港の機能を拡充するとともに大阪、関門各港と有機的なつながりを持せる②本州一四国間に五本の橋をかけ、瀬戸内循環自動車道を整備する③バージライン・

* KOBEオフィスレディ *



徳永広子さん（21才）

神戸倉庫秘書課勤務

芦屋女子短大を昨年卒業して、入社10ヵ月。世界一周の旅が夢だけど無理ならハワイでも…と夢は大きい。すくすく育ちすぎて身長が165cmもあるんです。私小さくて可愛いのが好なのに、と肩をすくめておっしゃる。笑うと両頬にエクリボができるチャーミングなお嬢さん。

今後の神戸経済界の努力式としゃれこんだ。井上五管本部長も「なかなかいいきなことをやるね」と感心。昨年、実力大臣の河野都設相（当時）を迎えた原口さんだけにやることもなかなか手が込んでいる。会議で司会役だったが、港湾都市協議会会長だけに貢献はじゅうぶん。運輸相から「明石一鳴門にまず橋をかける」「押し船は瀬戸内海には最適だ」「関門を国際航路にする」「港湾への補助も道路などにする」「瀬戸内大運河構想には大賛成だ」など言質というか、みやげもガツチリ確保し、御満足の体だった。

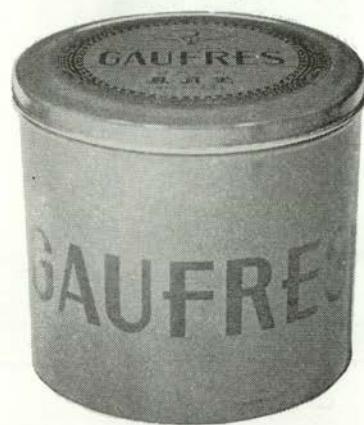
すべて課題について浅田神戸商工会議所会頭は「万国博については近畿一体の精神で大いに協力する。神戸としては今後は明石架橋の促進に大いに力を入れる。

さらに伊丹は国際空港としてすでに限界にきており、今後も超音速ジェット旅客機が発着できる新国際空港を淡路につくり、東京偏重の姿を改め、関西がもっとと海外と密接に結びつくようにならねばならない」と語っている。

一方、大阪府、市、兵庫、徳島各県、神戸市などでつくる本州・淡路・四国連絡架橋促進（協会会長金井兵庫県知事）はこれまでバラバラだった架橋促進運動を一本化することになり共同パンフレットの作成などに乗り出した。

お便りありがとうございます
夕夜小包がついて
みんな大喜び
おいしいお菓子の
一枚一枚に
家族一同すっかり
神戸の想い出に
ふけりました

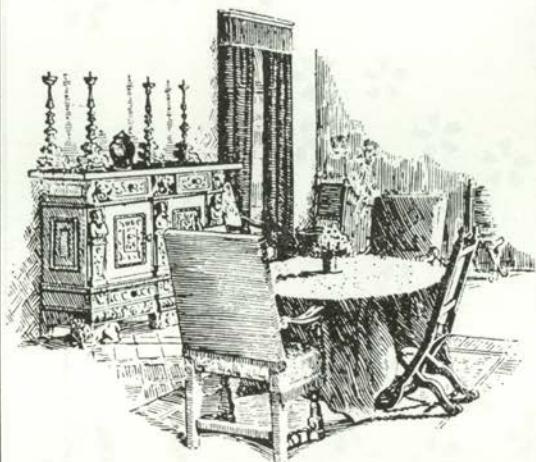
味覚の愉しみ
贈るよろこび
ゴーフル



神戸にそだって 70年

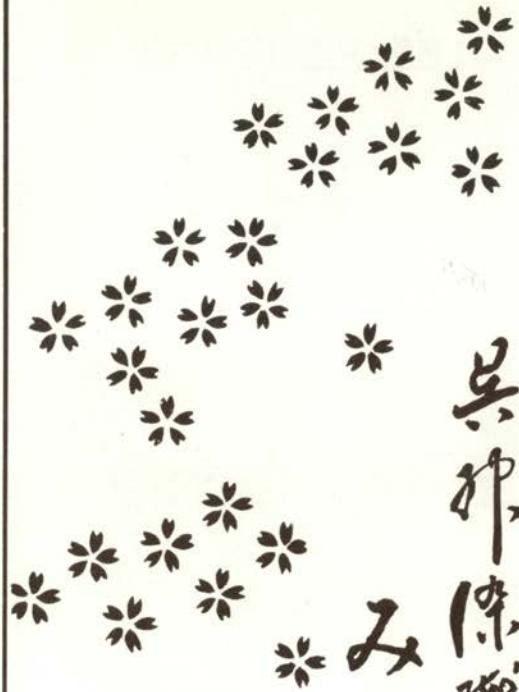
元町3丁目 TEL 392412~5

家具・室内装飾・工芸品



永田良介商店

大丸前 TEL { 393737
3739



兵作洋服
みよへや

大阪店 電話神戸⁽³³⁾三三八八九番
姫路店 電話 大阪⁽³⁴⁾五五四八番
衣裳部 電話 姫路⁽²³⁾一一三二一
番地 三宮町 三丁目 柳筋番階
電話^{(33) 五一六五}



ご贈答にどうぞ

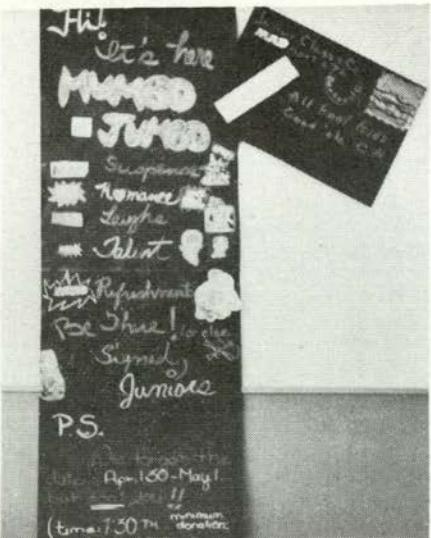
直輸入紗専門店・紳士服・婦人服

シマキ洋服店

神戸店 中山手通2丁目12佐々木ビル2・3階 ②6461~3
大阪店 北区梅ヶ枝町92ヤノシゲビル1階 (362) 9515

神戸の外人学校

松原新一 撮影／緒方しげを



もない、灘区高羽にある神戸日本語学校の初級クラスで用いられている語学の教科書からの引用である。そして学んでいるのは、子供ではなく大人である。我々日本人が英語を習い始める時に、This is a book. から教えられるのと、それはほぼ同様なのだと、いつてよからう。

神戸日本語学校が誕生したのは、一九五〇年のこと。伝道のために来日した外国人宣教師や日本で仕事をしようとする看護婦、先生、あるいは家庭の主婦などに日本語を教えるといふ地味な役割を、果しつづけてきたわけである。修業年限は2年。ただし、これはあくまで原則であつて、試験に落ちてまた振りだしに戻る人もある。午前の部と午後の部と夜間部に分れており、現在約50人の生徒（男女ほぼ同数）がここに通っている。1クラス3、4名ばかりで、みつちりと日本語を叩きこまる。先生は12名で、百元好雄校長を除けば、ことごとく女性である。英文科または国文科を出た人がほとんどで、みなこの学校専門に教えており、他校とのかけ持ちという人はいない。

初級クラスの授業ぶりを見学させてもらったので、ちよつとその模様をお伝えしよう。

3坪ほどの小さい部屋である。生徒は4人で、うち一組の夫婦と、あと2人はともに家庭の奥さん。黒板に赤や黄色い花の絵がはってある。

「机の上に白い花と黄色い花と赤い花と桃色の花があ

◆ ◆ ◆ ◆ ◆

「これはえんぴつです」

「つくえのうえに、しろいはながあります」

これは、小学校一年生の国語の教科書ではない。他で

ります。」

先生が、この単純な文章をゆっくりと、なん度もくり返している。生徒はそのあとを追う。

「さあ、それでは一人一人言つてみて下さい」

指名された順番に「机の上に白い花と……」一人づつしゃべっていくのだが、なかなかうまくいかない。ある

生徒は、「……アカイハナトモモイロハナガアリマス」とやつて、「モモイロノハナですよ」と訂正される。また、ある生徒はすらすらと淀みなく語りながら、

最後のところで、「モモイロノハナガアリマセン」とやつた。教室に爆笑の渦がわく。「……と……と」の「と」が出てこず「アンド」がすぐ口をつく。言い淀む奥さん

に隣りのご主人がそつと助け舟を出すひと駒もあった。先生は、机の上に手袋や鉛筆や筆箱や雑誌をひろげ、同型文章の反復練習をつづける。てぶくろがてびくろになつたり、ざっしがじやつしになつたりする。日本語の

イントネイションに慣れていないから、彼らの口調は、まるで楽譜をスロー・テンポで読んでいるような感じを与える。だが、やがてこの人たちも卒業の時期が近づく頃になると、菊池寛「父帰る」を、一応読みこなせるようになるのである。

特種な学校だけに、いろいろおもしろい話もあった。

あるご婦人が筆者に、傍らの男性を「これは私の男です」と紹介した。そばの百元校長がびっくり驚天、いろいろたずねてみると、「男」は「いいとこ」のまちがいであった。あとで百元氏は、「また変な言葉をおぼえてきたんじゃないかと思って、びっくりした」と苦笑していた。変な言葉といえば、この学校で教えているのは、もちろん現代の標準語であるが、ハワイから来ている生徒のなかに、向うでおぼえた日本語を得意気に使つて、先生方を悩ませることがあるという。いわく「活動写真」いわく「めげる」……それらは、あるいは既に期限の切れた言葉であり、あるいは方言であると納得させるのに、相当苦労がかかるそうだ。また、突然町の中で出会った

りした生徒が「先生、景気はいいですか」と話しかけて、先生をまごつかせることもある。「オッス」とあいさつされることもさらである。そういう言葉を使つてはいけないと注意しても、なかなか納得しないらしい。日本的人は、みんな使っているじゃないかと、逆に反抗していくそうである。敬語やていねい語も、彼らには苦手である。「私の坊っちゃん」「あなたの息子」といつたり、「私の奥さん」「あなたの家内」といつたりする。しかし、かなり日本語に熟達してくると、彼らも相当つっこんだ質問を出して先生を困らせる。資材と材料はどうちがうのか、財産と資産はどうちがうのか。こうした質問に、用例をあげて分りやすく説明できなければ、ここ



「コレハホンデス」「コレハエンビツデス」日本語と取り組む外国人生徒たち。

の教師はつとまらないのである。英語を巧みに話せるというより日本語に関する造詣の深さを、より強く求められるということである。百元氏の意見によれば、語学の能力は外国人の方がすぐれているという。同じレベルの言葉をマスターするのに、日本人より外国人の方が速度がはやいといふのである。それだけ彼らは、感覚的に鋭敏だということだろうか。

神戸日本語学校に入學して、まだ2週間にしかならないといふミセス・イクタ（インドネシア）は、日本語を学び始めた動機をこう語っている。「やはり日本で生活していく以上、日本語を知らないといふわけにはいきません。そのためには、やはり学校で習わないと、正しい日本語をマスターできないでしょう。東京にも日本語学校はありますけど、友達の意見によればどうも東京の教え方は表面的だそうですね。その点こちらは深くえぐるという感じ。一方はペンキ屋的だし、一方は百姓的といふことで、東京と関西の相違がその辺にも感じられますね。」

また、啓明女学院に寄宿しているミス・マーティンは、既に前記の「父帰る」をテキストに使うほどの上級生だが、日本語はすべてむずかしいといふ。「発音はとにかく、イントネイションがむずかしい。それに漢字をおぼえるのが大変ですね。この9月に卒業して、豊岡へ行きます。伝道の仕事が私を待っていますから」そして、今はテレビも映画もご法度、毎日「勉強、勉強、勉強」の連続だといふのである。日本人のなかに深く溶けこもうとして、日本語をマスターしようとしている彼らの努力に、私たちちは心から声援を送りたいと思う。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

バスを降りると坂道である。篠原本町5丁目停留所の少し西、川に沿って坂道をのぼる。かなりの急坂だが、10分ほど歩くと、そこはもう山である。名づけて長峰山という。そこにカナディアン・アカデミーがある。一九一三年九月、阪神地方に在留する外国人子弟を対象とし

て、カナダ・メソジスト・ミッションが主体となつて創設した。当時の校舎は、青谷の関西学院の隣接地にあった。ミセス・A・D・マイゼナー校長のもと、全寮制で生徒数わずかに16名という家庭的な雰囲気の中で教育がなされた。この初代校長を記念する意味で、現在の女子寮は、マイゼナー・ハウスと呼ばれている。一九三三年、長峰山に男子寮としてグロスター・ハウスが建てられた。この時、敷地の除幕式に、英國皇室「グロスター公」が来日した際、参列された榮誉にちなんで、その名があるという。だが、第二次世界大戦時、爆撃をうけて青谷の校舎は、悉く灰燼に帰した。その後しばらく学校閉鎖という暗黒の時をすごすが、一九五二年再び開校、前記グロスター・ハウスの1、2階を教室に使用、復活の第一歩を歩み始めた。この時、生徒数は110名だった。現在では木造2階建の小学部校舎、鉄筋3階建の中学校部校舎、鉄筋4階建の男子寮、女子寮の他、食堂、講堂、運動場などの充実した施設のもとで、小学校一年生から高校三年生まで、430名の生徒が学んでいるわけである。教師数35名。国籍数25カ国というのだから驚かされる。最も多いのはアメリカで、カナダ、中国、英国、印度というふうに多彩な色どりである。

この学園を訪れて、最初にうける印象は、一種独特の明るさである。例えば、広いグラウンドに出てみる。白線のひかれたグラウンドで、女子中学生たちが短距離競争に熱中している。彼女たちの着用しているトレーニングシャツもズボンも、ともに赤い色である。パツと花が開いたような明るさがそこにあつた。日本の学校に、こういうはなやかな光景を求めるることは、たぶんできない。休憩時間になると、生徒たちがいつせいにあふれ出でてきた。小学生もいる。中学生もいる。高校生もいる。校舎の前の石段を、走りおりてきた女の子たちが、わっと鉄棒に飛びつく。鉄棒の上でぐるっと一回転した拍子に、あらわれた白い脚が、春の陽光を浴びてまぶしいほどに可愛い。私の傍を小学生らしい金髪の女の子が3人、肩を組

み合って通りすぎてゆく。ときどき後を振り向き、口々に「グッバイ・ジョニー」と叫んでいる。足どりに合わせて、まるで歌うような口ぶりだ。グッバイ・ジョニー、グッバイ・ジョニーをくり返しながら。校舎の中に、外国の学校らしいはなやいだムードが感じられる。廊下の壁面いつたいに、絵や写真や伝言記事がにぎにぎしくはりめぐらされている。中にはヘミングウェイ「老人と海」をテーマに描いた絵もあつて、なかなか楽しい。「ジャンボ! マンボ」と大書したダンスパーティの案内状まである。きけば、先生の管理下に月に1、2回高校生のダンスパーティが講堂で開催されるのだとう。男女の交際をつうじて社会性をつかうというのが目的であるが、こういう開放的な配慮は、日本の学校には求めにくいいのではあるまい。いまひとつ、この学校の特色は、教育上の合理主義である。学校まで徒歩通学をする生徒はほとんどいない。スクールバスを利用する。急な坂道を歩いて疲れてはつまらないというのである。

抽象的な徳目主義とも無縁なのである。良し悪しは別として、こういう明快な割り切り方も、一つのすがすがしい態度にちがいない。日本の現在の学校教育のあり方との比較をあれこれ考えながら、私はこの特異な学校を辞した。



休み時間にドッジボールに興じる小学生（カナディアン・アカデミー）

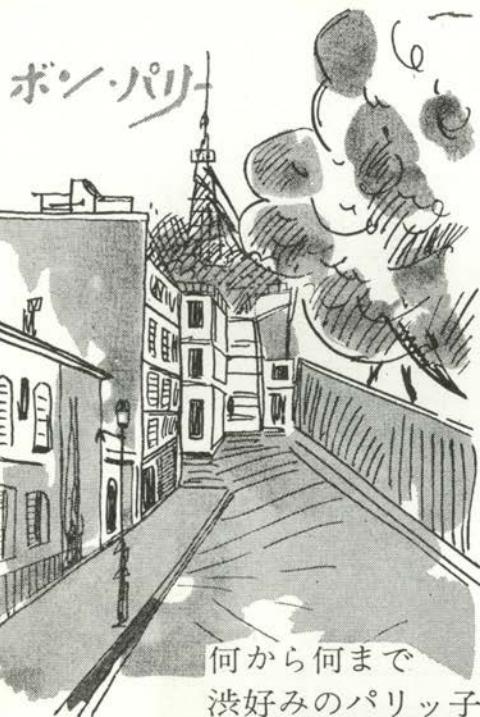
る。歩けば体が鍛えられていいというような鍛錬主義はここはない。冬にオーバーを着るのも自由である。男子生徒はオーバー着用で通学してはいけないなどといふ、日本式ガンバリズムより、ムリをして風邪をひいてはつまらないという合理精神がそこにある。ギルバート・イ・バスカム校長に教育方針をたずねた時にも同様の合理精神を感じた。バスカム氏は次のようにいうのである。

「ここを卒業した生徒のうち90%以上のものが、それぞれ母国に戻って大学に進学することを望んでいます。

だから、そのための準備学校としての役割を果してゆきたいと思っています」



化学の授業風景。高校生の真剣な目が黒板をみつめる。（カナディアン・アカデミー）

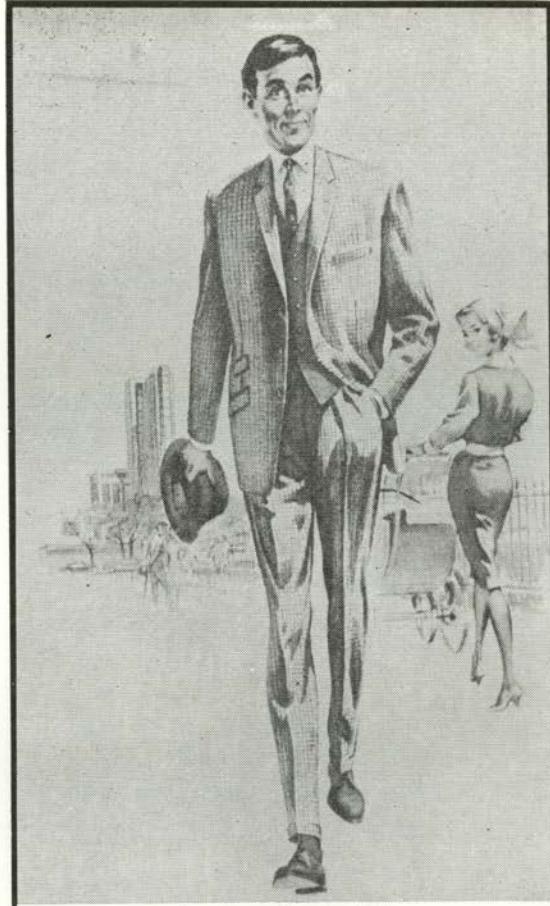


ポン・パリーは洋菓子の
本場フランスの味です
ブドーと洋酒を上品に、
ミックスした風味あるお
菓子です



アルmond

本店 神戸市生田区元町通2の43
直売所 神戸大丸・新聞会館秀品店
本店TEL 332203



高級紳士服

山名洋服店

神戸三宮生田筋 335797

Akira Beauty Shop



プチットな髪 新鮮なカット

美容室

あきら

西野 明

電話 予約制

三宮本通り TEL (33)4461・6458



神戸のセンスを生かす店

*服飾 KEI の店

生田区三宮町3丁目57
大丸前服部宝生堂眼鏡店2階
TEL (33) 75550